

### 325) 楠

小生が結構百姓仕事に興味があるという話は先にも紹介しやしたが、小生の友人で、でっかい山を持っている奴がいるのであります。ところがこの山は公道に面していないために家を建てることができないのと、全く手入れをしていなかったためにブッシュが繁って、一寸先も見えないような状態になっていやした。それを小生とこいつと二人で、10年掛かって何とかずっと見通せるように切り開いたのであります。ところがそうなる結構外部の人間が入り込んできて、山草を抜いていたり、特に秋には山芋を掘りに来たりして、あちこちにポコポコと穴があいてきたのであります。時々その穴に落ちて、ひどい目に遭ったりしていたのですが、とりわけ楠の下にはそんな穴が多かったのであります。

さてある春の日に久しぶりで山に来ると、頂上付近がやたらと見通しが良くなっていました。アリヤどうしたことだろうと、よくよく見回すと、頂上付近の楠が一本残らずなくなっているではありませんか。根っ子からごっそり掘り取って行ってしまったのであります。ウムしてやられた。山芋掘りの後とばかり思っていた穴は、何と移植のための根回しの穴だったのであります。それにしてもあんなにデッカイ木をどうやって持っていったのだろうか。トラックが入る道まで50mはある。イヤイヤご苦労さんでござんした。それにしても穴を見たら泥棒と思わなければならないところが、なんとも悲しい結末なのであります。